

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第40週（10月1日～10月7日）

★お知らせ

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第39週の3.23から第40週には3.43と横ばいです。県全域から報告があり、安芸で急増、須崎、中央西、中央東で増加しています。

定点医療機関からのホット情報ではRS ウイルス感染症が13例の報告があります。

病原体検出情報では臨床診断名「急性気管支炎」「呼吸器感染症」「上気道炎」でRespiratory syncytial virusが合計3例検出されています。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRS ウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

＜予防方法＞ 咳エチケットと手洗いが大切です

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。また、早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクな乳幼児には予防効果が期待できるため、パリビズマブ（抗RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体）の投与があります。（本剤の添付文書では、投与に際しては学会等から提唱されているガイドライン等を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮することとされており、保険適用となっています。）

●RS ウイルス感染症 Q&A（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

○夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

涼しくなってきましたが、夏型感染症の報告が継続していますので注意しましょう。

手足口病

定点医療機関当たりの報告数は、第39週の0.73から第40週には1.03と増加しています。須崎、安芸で急減していますが、中央西、幡多で急増、高知市、中央東で増加しています。

ヘルパンギーナ

定点医療機関当たりの報告数は第39週の1.87から第40週は1.23と減少しています。県全域から報告があり、中央東で急減、高知市、幡多、中央西で減少していますが、須崎、安芸では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報ではヘルパンギーナ2例や「手足口病減少、ヘルパンギーナ増加」との報告があります。

病原体検出情報では、臨床診断名「手足口病」でEnterovirus 71が2例、Rhinovirusが1例、「ヘルパンギーナ」でEnterovirus 68が1例、その他の手足口病・ヘルパンギーナの原因ウイルスであるエンテロウイルスの検出状況としては臨床診断名「急性上気道炎」でCoxsackievirus A10が1例検出されています。今季、臨床診断名「手足口病」で検出数の多いEnterovirus 71は、中枢神経系の合併症の発生率が高いことが知られ、まれに急性髄膜炎や急性脳炎を生ずることがあります。高熱・嘔吐・頭痛が見られる場合は十分に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

＜予防方法＞ これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。また、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第39週の1.53から第40週は1.47と横ばいです。須崎、中央西で急減、安芸で減少していますが、幡多で急増、中央東で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、カンピロバクター属菌や病原性大腸菌、サルモネラ属菌など細菌を原因とする胃腸炎6例の報告があります。

病原体検出情報では臨床診断名「感染性胃腸炎(疑いも含む)」で Sapovirus genogroup unknown が 1 例、Rhinovirus が 2 例、Echovirus 11 が 1 例、「無し」で Norovirus GII NT が 1 例検出されていますので注意してください。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触(便など)や汚染された水、食品によって経口的に感染します。

<予防方法> 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法(食中毒菌を①付けない(洗う・分ける) ②増やさない(低温保存・早めに食べる) ③やっつける(加熱処理))です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

関東地方を中心に風しんの報告が多い状態が継続しています。高知県の患者数は、2015(平成27)年から報告はありませんが、2018(平成30)年の全国の患者数952人(第39週まで)のうち96%(913人)が成人で、男性が女性の5倍多くなっています(男性792人、女性160人)。今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので注意してください。

<各医療機関管理者の皆様へ>

(高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より)

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

<県民の皆様へ>

風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。

風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう(1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方)

風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで(妊娠初期)の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害(先天性風しん症候群)をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りにはいる方(夫、子供及びその他の同居人)は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しんの感染予防の普及・啓発について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakaku-kansenshou/rubella/vaccination/vaccine.html

衛研ニュース第20号(高知県衛生研究所)30~50歳代の男性!風しんのことを知っていますか?

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム: 県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム



☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

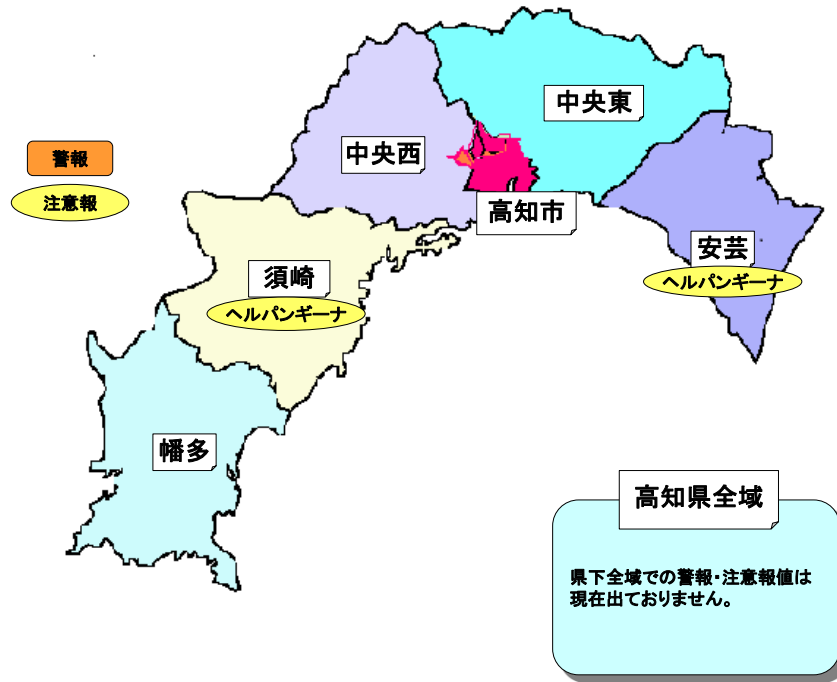
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
RS ウイルス感染症	→	3. 4 3	安芸で急増、須崎、中央西、中央東で増加しています。
感染性胃腸炎	→	1. 4 7	須崎、中央西で急減、安芸で減少していますが、幡多で急増、中央東で増加しています。
ヘルパンギーナ	↓	1. 2 3	中央東で急減、県全域、高知市、幡多、中央西で減少していますが、須崎、安芸では注意報値を超えています。
手足口病	↗	1. 0 3	須崎、安芸で急減していますが、中央西、幡多で急増、県全域、高知市、中央東で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	→	0. 7 7	須崎、中央東で急減、幡多で減少していますが、中央西で急増しています。

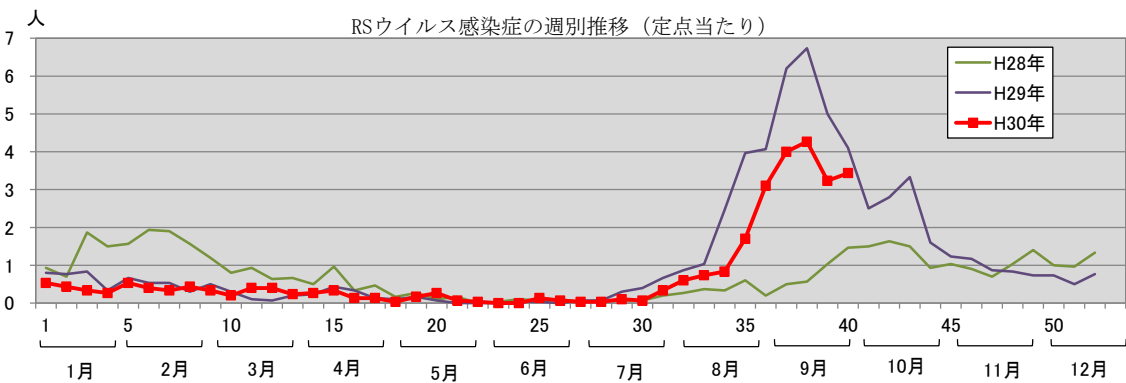
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

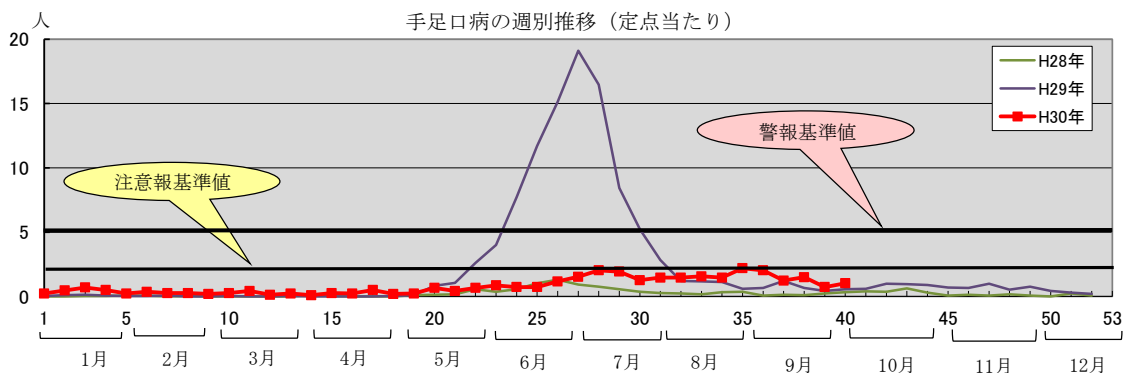
○RSウイルス感染症 第40週：3.43 (注意報値：－ 警報値：－)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.43 (前週：3.23) と横ばいです。安芸 1.00 (前週：0.00) で急増、須崎 3.50 (前週：2.50) 中央西 3.00 (前週：2.33) 中央東 1.71 (前週：0.86) で増加しています。年齢別にみると、患者の98%が3歳以下となっています。



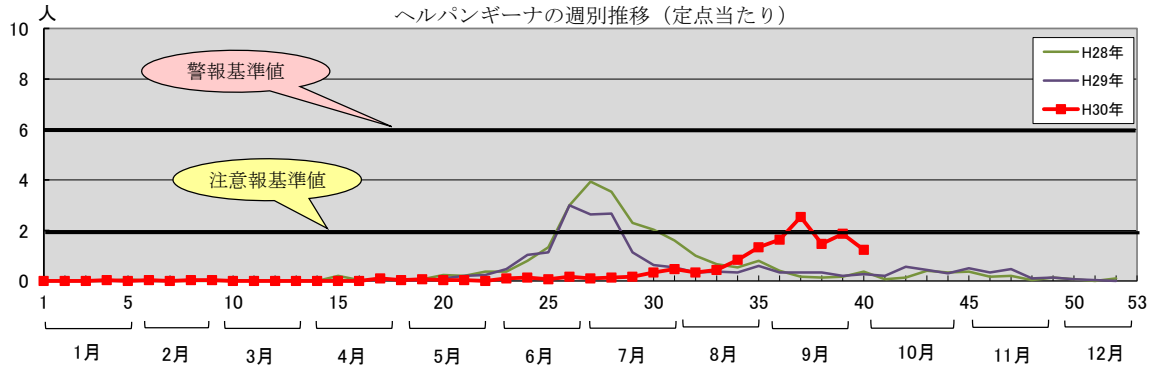
○手足口病 第40週：1.03 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.03 (前週：0.73) と増加しています。須崎 1.50 (前週：4.00) 安芸 0.00 (前週：0.50) で急減していますが、中央西 1.33 (前週：0.33) 幡多 1.00 (前週：0.00) で急増、高知市 1.09 (前週：0.73) 中央東 1.00 (前週：0.57) で増加しています。



○ヘルパンギーナ 第40週：1.23 （注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.23（前週：1.87）と減少しています。中央東 0.43（前週：1.14）で急減、高知市 1.45（前週：2.18）幡多 1.00（前週：2.00）中央西 0.67（前週：1.00）で減少していますが、須崎 3.50（前週：3.00）安芸 2.00（前週：2.50）では注意報値を超えています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
40	—	39℃,嘔吐,嘔気,腹痛,	10	男	高知市	Norovirus GII NT
40	急性気管支炎	咳嗽,気管支炎,	6ヶ月	男	中央東	Respiratory syncytial virus
40	呼吸器感染症	気管支炎,	8ヶ月	男	中央東	Respiratory syncytial virus
40	上気道炎	38℃,上気道炎,	1ヶ月	男	幡多	Respiratory syncytial virus
40	感染性胃腸炎	36℃,嘔吐,嘔気,	3	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown
40	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38℃,上気道炎,	7	女	高知市	Streptococcus pyogenes TB3264

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
31	手足口病	—	4	女	須崎	Enterovirus 71
36	ヘルパンギーナ	39℃,咳嗽,気管支炎,肝機能,	1	男	中央東	Enterovirus 68
36	感染性胃腸炎	下痢,腹痛,	3	男	須崎	Rhinovirus
37	無菌性髄膜炎	40℃,	0ヶ月	男	高知市	Echovirus 7
37	手足口病	発疹,	15	女	須崎	Enterovirus 71
37	—	—	3	男	高知市	Rhinovirus
38	不明発疹症	39℃,咳嗽,発疹,	9ヶ月	男	須崎	Adenovirus 2
38	急性上気道炎	39℃,上気道炎,	6	女	中央東	Coxsackievirus A10
38	感染性胃腸炎	39℃,下痢,嘔吐,嘔気,	2ヶ月	女	幡多	Echovirus 11
38	—	38℃,	0ヶ月	男	高知市	Echovirus 7
38	急性気管支炎	咳嗽,上気道炎,	8ヶ月	女	中央東	Rhinovirus
38	手足口病	発疹,	1	女	須崎	Rhinovirus
38	咽頭結膜熱（結膜炎はなし）	40℃,	7ヶ月	男	幡多	Rhinovirus
38	—	39℃,	1ヶ月	男	幡多	Rhinovirus
39	不明発疹症	発疹,	15	女	須崎	Human herpes virus 7
39	上気道炎	38℃,上気道炎,	2ヶ月	男	高知市	Rhinovirus
39	感染性胃腸炎疑い	嘔吐,嘔気,腹痛,関節痛,	6	男	中央東	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	77	80歳代 男	中央西
		1		80歳代 男	
		1		60歳代 男	須崎

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	E.coli O111 (ベロトキシン陰性) 1例 (5歳女) カンピロバクター腸炎 1例 (3歳女)
	高知大学医学部附属病院小児科	ヒトメタニューモニア細気管支炎 1例 (1ヶ月女)
	野市中央病院小児科	RSウイルス感染症 1例 (6ヶ月女)
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 7例 (6ヶ月男、10ヶ月男2人、10ヶ月女、1歳男、1歳女2人) サルモネラ 1例 (3歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	RSウイルス感染症 5例 (10ヶ月女、11ヶ月男、1歳男2人、1歳女) 溶連菌感染症 5例 伝染性紅斑 1例 (9歳男) 水痘 1例 (5歳女：ワクチン2回接種済み) ヘルパンギーナ 1例
中央西	石黒小児科	帯状疱疹 2例 (5歳女、8歳男)
	くぼたこどもクリニック	ムンプス 1例 (4歳男：須崎市) アデノウイルス感染症 1例 (5歳男) ヘルパンギーナ 1例 (2歳女：仁淀川町)
	日高クリニック	ヘルペス性歯肉口内炎 2例 (9歳女、35歳女) アデノウイルス扁桃炎 1例 (10ヶ月女)
須崎	もりはた小児科	手足口病減少 ヘルパンギーナ増加 先週：サルモネラ腸炎 3例 (3歳、5歳、8歳：3兄弟 (たまごごはん))
幡多	こいけクリニック	猫ひっかき病 1例 (12歳女)

★全国情報

第38号 (9月17日～9月23日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核292例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症96例、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎10例、A型肝炎13例、デング熱4例、日本紅斑熱9例、マラリア1例、
レジオネラ症67例

5類感染症：アメーバ赤痢9例、ウイルス性肝炎5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症29例

急性弛緩性麻痺2例、急性脳炎5例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、後天性免疫不全症候群14例

侵襲性インフルエンザ菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症17例、水痘 (入院例に限る) 5例

梅毒62例、播種性クリプトコックス症2例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

百日咳175例、風しん100例、麻しん2例

削除予定：風しん4例

報告遅れ：日本紅斑熱3例、レジオネラ症13例、レプトスピラ症1例

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症22例、急性弛緩性麻痺2例、急性脳炎3例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、水痘 (入院例に限る) 6例

梅毒65例、百日咳123例、風しん29例、麻しん1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第40週 平成30年10月1日(月)～平成30年10月7日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第40週							計	前週	全国(39週)	高知県(40週末累計)		全国(39週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/10/7				H30/1/1～H30/9/30			
インフルエンザ	インフルエンザ				1				1 (0.02)	3 (0.06)	795 (0.16)	20,893 (435.27)	1,763,385 (357.18)			
小児科	咽頭結核熱		4	2	1				7 (0.23)	16 (0.53)	739 (0.23)	434 (14.47)	54,012 (17.14)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				13	6	1	3	23 (0.77)	21 (0.70)	3,918 (1.24)	1,499 (49.97)	264,267 (83.87)			
	感染性胃腸炎	2	10	26		1	5	44 (1.47)	46 (1.53)	9,458 (2.99)	3,986 (132.87)	599,775 (190.34)				
	水痘			1			1	2 (0.07)	()	733 (0.23)	219 (7.30)	37,291 (11.83)				
	手足口病		7	12	4	3	5	31 (1.03)	22 (0.73)	2,709 (0.86)	977 (32.57)	92,403 (29.32)				
	伝染性紅斑		3	1	1			5 (0.17)	3 (0.10)	880 (0.28)	127 (4.23)	22,701 (7.20)				
	突発性発疹		2	3	1			6 (0.20)	3 (0.10)	1,199 (0.38)	418 (13.93)	54,585 (17.32)				
	ヘルパンギーナ	4	3	16	2	7	5	37 (1.23)	56 (1.87)	2,667 (0.84)	413 (13.77)	88,262 (28.01)				
	流行性耳下腺炎			1	1	1		3 (0.10)	1 (0.03)	383 (0.12)	57 (1.90)	18,879 (5.99)				
	RSウイルス感染症	2	12	58	9	7	15	103 (3.43)	97 (3.23)	5,378 (1.70)	868 (28.93)	90,553 (28.74)				
眼科	急性出血性結核炎							()	()	3 ()	()	460 (0.66)				
	流行性角結核炎							()	4 (1.33)	707 (1.01)	100 (33.33)	22,585 (32.45)				
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	5 (0.01)	3 (0.38)	370 (0.77)				
	無菌性髄膜炎							()	()	18 (0.04)	1 (0.13)	607 (1.26)				
	マイコプラズマ肺炎			6				6 (0.75)	3 (0.38)	121 (0.25)	79 (9.88)	3,419 (7.12)				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	()	4 (0.01)	16 (2.00)	115 (0.24)				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							()	()	3 (0.01)	32 (4.00)	3,067 (6.39)				
計(小児科定点当たり人数)	8 (4.00)	41 (5.86)	140 (12.07)	26 (8.52)	20 (10.00)	34 (6.80)	269 (8.72)			29,720	30,122 (735.21)	3,116,736				
前週(小児科定点当たり人数)	9 (4.50)	29 (4.14)	148 (12.82)	18 (5.72)	30 (14.75)	41 (8.20)		275 (8.88)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第40週							計	前週	全国(39週)	高知県(40週末累計)		全国(39週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/10/7				H30/1/1～H30/9/30			
インフルエンザ	インフルエンザ				0.20				0.02	0.06	0.16	435.27	357.18			
小児科	咽頭結核熱		0.57	0.18	0.33				0.23	0.53	0.23	14.47	17.14			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1.18	2.00	0.50	0.60	0.77	0.70	1.24	49.97	83.87			
	感染性胃腸炎	1.00	1.43	2.36		0.50	1.00	1.47	1.47	1.53	2.99	132.87	190.34			
	水痘			0.09			0.20	0.07			0.23	7.30	11.83			
	手足口病		1.00	1.09	1.33	1.50	1.00	1.03	1.03	0.73	0.86	32.57	29.32			
	伝染性紅斑		0.43	0.09	0.33			0.17	0.17	0.10	0.28	4.23	7.20			
	突発性発疹		0.29	0.27	0.33			0.20	0.20	0.10	0.38	13.93	17.32			
	ヘルパンギーナ	2.00	0.43	1.45	0.67	3.50	1.00	1.23	1.23	1.87	0.84	13.77	28.01			
	流行性耳下腺炎			0.09	0.33	0.50		0.10	0.10	0.03	0.12	1.90	5.99			
	RSウイルス感染症	1.00	1.71	5.27	3.00	3.50	3.00	3.43	3.43	3.23	1.70	28.93	28.74			
眼科	急性出血性結核炎												0.66			
	流行性角結核炎								1.33	1.01	33.33	32.45				
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.38	0.77				
	無菌性髄膜炎									0.04	0.13	1.26				
	マイコプラズマ肺炎			1.20				0.75	0.38	0.25	9.88	7.12				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13		0.01	2.00	0.24				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)									0.01	4.00	6.39				
計(小児科定点当たり人数)	4.00	5.86	12.07	8.52	10.00	6.80	8.72				735.21					
前週(小児科定点当たり人数)	4.50	4.14	12.82	5.72	14.75	8.20		8.88								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
 〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
 TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869
 この情報に記載のデータは2018年10月9日現在の情報により作成
 しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることが
 ありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。